

脳神経外科

1. 臨床医学教育の現状と評価

(1) 臨床医学教育の目標

世界で通用する脳神経外科医の育成

(2) 医員、医員（研修医）の現状と研修実績

1) 初期研修医の現状について

a. 研修実績について（対象期間：平成9年度－12年度）

入局者数と本院での研修期間（月数：平均値）

年 度	9年度	10年度	11年度	12年度
入局者数	1人	0人	1人	1人
研修期間	6ヶ月	0ヶ月	8ヶ月	6ヶ月

b. ローテート方式研修の実績

平成9年度：0人

平成10年度：0人

平成11年度：1人、研修した他科名：救急医学

平成12年度：1人、研修した他科名：救急医学

2) 医員の受入れ状況（対象期間：平成9年度－12年度）

年 度	9年度	10年度	11年度	12年度
採用者数	2人	2人	2人	2人

(3) 指導体制について

上級指導医（複数）による完全指導

スタッフ全員による毎朝8：00からのカンファレンス

(4) 研修の評価について

指導医及び現場主任からの連日のチェックと評価

(5) 関連研修施設の現状

- 1) アルメイダ病院 2) 永富脳外 3) 河野脳外 4) 中津脳外 5) 大手町病院
6) コスモス病院 7) 一ノ宮脳外

(6) 臨床教授

永富 裕文（永富脳神経外科病院院長）

佐藤 智彦（アルメイダ病院 脳神経外科部長）

(7) 認定医・専門医・指導医の取得状況（平成9年度－12年度）

日本脳神経外科学会／専門医4名

(8) 学会認定施設の状況

日本脳神経外科学会認定施設

※今後の課題と改善策

- ・man power不足とその充足

2. 臨床医学研究の現状と評価

(1) 臨床医学研究の目標

臨床的視点から問題点を提起し、得られた知見を実践の場へフィードバックする。

(2) 研究スタッフ

教授 1名、助教授 1名、講師、2名、助手 5名

実験助手（非常勤職員を含む） 2名

事務職員（非常勤職員を含む） 1名

(3) 研究領域と研究課題（対象期間：平成9年度－12年度）

主な研究課題名

1) 脳血管障害・脳梗塞の分子生物学的研究

2) 非侵襲的大脳刺激による虚血性神経細胞障害の治療

3) 中枢神経機能再建の外科治療

(4) 博士（医学）の学位の取得状況（平成9年度－12年度）

年 度	9年度	10年度	11年度	12年度
取得者数	1名	1名	0名	1名

(5) 学会、研究会活動（シンポジウム、特別講演、学会役職等）

年 度	9年度	10年度	11年度	12年度
学会発表 (国際)	6回	7回	5回	2回
(国内)	43回	56回	39回	45回
(地方)	12回	7回	6回	14回
(司会・座長)	3回	3回	4回	3回
シンポジウム特別講演等				
(国際)	6回	0回	7回	1回
(国内)	3回	3回	0回	0回
(地方)	1回	0回	0回	2回
(司会・座長)	0回	0回	3回	1回

学会役職（評議員、理事等）（平成9年度－平成12年度）	
日本脳神経外科学会	古林秀則（評議員）
日本脳神経外科学会九州地方会	古林秀則（世話人）
東海頭蓋底外科	古林秀則（運営委員）
日本脳腫瘍の外科学会	古林秀則（運営委員）
磁気刺激研究会	藤木 稔（運営委員・世話人）
意識障害学会	磯野光夫（運営委員）
日本生体磁気学会	藤木 稔（評議員）

(6) 研究論文（英文、和文）（平成9年度－12年度）

- 1) (1.04). Handa Y, Kaneko M, Takeuchi H, Tsuchida A, Kobayashi H, Kubota T: Effect of an antioxidant, Ebselin, on development of chronic cerebral vasospasm after subarachnoid hemorrhage in primates. Surg Neurol 53 (4) : 323-329, 2000
- 2) (1.655). Koder T, Nakagawa T, Kubota T, Kabuto M, Sato K, Kobayashi H: The expression and activation of matrix metalloproteinase-2 in rat brain after implantation of C6

rat glioma cells. J Neuro-Oncol 46 : 105-114, 2000

- 3) (1.1). Kobayashi H, Matsukawa S, Kobayashi S, Kubota T : Changes in expression of mRNAs in the gerbil hippocampus following transient forebrain ischemia. Neurol Res 22 (8) : 825-831, 2000
- 4) (1.1). Koder T, Kubota T, Kabuto M, Nakagawa T, Takeuchi H, Arishima H, Sato K, Kobayashi H, Kitabayashi M, Hirose S : Analysis of the proliferative potential of tumor cells after stereotactic radiosurgery for recurrent astrocytic tumors. Neurol Res 22 (8) : 802-808, 2000
- 5) (1.61). Morikawa N, Mori T, Kawashima H, Takeyama M, Hori S : Change of vaiproc acid concentrations during cerebrospinal fluid perfusion chemotherapy. The Annals of Pharmacotherapy 34 : 536-537, 2000
- 6) (3.346). Wakabayashi Y, Isono M, Shimomura T, Tashima A, Terashi H, Asada Y, Izumi T : Neurocutaneous vascular hamartomas mimicking Cobb syndrome. J Neurosurg 93 : 133-136, 2000
- 7) (3.26). Ishii K, Isono M, Inoue R, Hori S : Attempted gene therapy for intractable pain ; Dexamethasone-mediated exogenous control of B-endorphin secretion in genetically modified cells and intrathecal transplantation. Exp Neurol 166 : 90-98, 2000
- 8) (4.64). Inoue R, Abe M, Nakabeppu Y, Sekiguchi M, Mori T, Suzuki T : Characterization of human polymorphic DNA repair methyltransferase. Pharmacogenetics, 10 (1), 59-66, 2000
- 9) (3.26). Fujiki M, Steward O, Isono M : Local hypothermia limits secondary injury, neuronal death and progressive necrosis and cavitation following spinal cord Injury. Neural Regeneration (Seil F.J ed), Exp Neurol 163 : 279-286, 2000
- 10) (2.539). Fujiki M and Steward O. High frequency transcranial magnetic stimulation mimics the effects of ECS in upregulating astroglial gene expression in the murine CNS. Molecular Brain Research 44 : 301-308, 2000

(7) 高度先進医療開発研究の現状

高頻度磁気刺激による神経難病の治療

※今後の課題と改善策

・ 日常の診療体制づくりに加え、臨床研究を念頭に置いた臨床姿勢の構築

3. 診療の現状と評価

(1) 診療の目標

脳神経疾患に関わるあらゆる疾患の最善の検査、治療

(2) 診療実績 (平成9年度-12年度)

区 分	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度
外 来 患 者 数	3,573人	3,694人	3,693人	3,731人
初 診 患 者 数	285人	265人	245人	247人
紹 介 患 者 数	124人	121人	128人	146人
入 院 患 者 数	9,321人	9,434人	9,331人	8,152人
平 均 在 院 日 数	53.4日	45.6日	48.2日	35.1日
平均病床稼働率	91.2%	93.7%	94.4%	82.7%
死 亡 退 院 率	7.0%	4.5%	4.8%	4.8%
剖 検 率	50.0%	33.3%	44.4%	0.0%

(3) 特殊検査・手術症例等

経頭蓋磁気刺激による運動機能評価

(4) 特殊専門外来

なし

(5) 高度先進医療・先端医療の導入

高頻度磁気刺激による神経難病の治療

※今後の課題と改善策

- ・在院日数28日以内と、ベット回転率のバランス
- ・低体温療法など重症患者と軽い患者とのバランス

4. 国際交流について (平成9年度-12年度)

(1) 国際医療協力体制

Albany医科大学、Helsinki大学、Western Ontario大学、UCLA、UC Irvine

(2) 留学 (長期外国出張)

- 1) ハーバード大学 (アメリカ合衆国) 平成11年9月～平成14年3月 1名
- 2) エモリー大学 (アメリカ合衆国) 平成11年9月～平成12年8月 1名

(3) 外国出張 (国際学会活動など)

1) 平成9年

1997 Annual meeting of the American Association of Neurological Surgeons

1名 アメリカ合衆国

Neurosurgery research seminar of the Albany Medical College

1名 アメリカ合衆国

18th International symposium on cerebral blood flow and metabolism

1名 アメリカ合衆国

6th International Neural Transplantation Meeting

2名 アメリカ合衆国

Society for neuroscience

1名 アメリカ合衆国

1st International meeting on rTMS

1名 スイス

2) 平成10年

3rd Joint section on Cerebrovascular Surgery of the American Association of Neurological Surgeons, Congress of Neurological Surgeons, and American Society of Interventional and Therapeutic Neuroradiology

1名 アメリカ合衆国

Neurology and Neurosurgery Ground Rounds of the University of Arizona

1名 アメリカ合衆国

1998 Annual meeting of the American Association of Neurological Surgeons

1名 アメリカ合衆国

5th Annual Conference of The American Society for Neural Transplantation

2名 アメリカ合衆国

3) 平成11年

19th International symposium on cerebral blood flow and metabolism and function

1名 アメリカ合衆国

Neurosurgery grand rounds of the Helsinki University Central Hospital

1名 アメリカ合衆国

International Symposium on Neural Repair at Reeve-Irvine Research Center

1名 アメリカ合衆国

8th International Symposium on Neuronal Regeneration

1名 アメリカ合衆国

Society for Neuroscience

2名 アメリカ合衆国

7th International Meeting on Neural Transplantation and Repair 2名 アメリカ合衆国

4) 平成12年

なし

(4) 外国人研究者の受け入れ状況

年 度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度
目 的			研 究	研 究
受 入 人 数			1名	1名
出 身 国 名			中 国	中 国
滞 在 期 間			1年	1年
費 用 負 担			国 費	国 費

※今後の課題と改善策

・国際的視野を持つ医師育成のための交流

5. 国内学会や研究会の開催（平成9年度－12年度）

診療科で担当した地方学会・研究会、全国規模の学会・研究会

学 会 等 の 名 称	開催期日	参加人員	発表形式	その他
九 州 地 方 会	97年6月	200名	口 演	
意 識 障 害 学 会	99年7月	300名	口 演	

※今後の課題と改善策

・全国学会運営に足る資金集め

6. 地域との関わり

診療科で担当した大分県内の研修会、研究会について

研 修 会 等 の 名 称	開催頻度	参加人員	発表形式	認定医資格継続適合の有無
脳 卒 中 研 究 会	年2回	50名	口 演	有
脳 腫 瘍 研 究 会	年2回	50名	口 演	有

※今後の課題と改善策

- ・ スポンサーによりサポート減少のなか、地方の研究会の運営
- ・ 出席者の拡大

7. 診療科の特色

高度先進医療の推進

8. 将来展望

高度先進医療の推進

国際視点で活躍